



碧南ロータリークラブ週報

第2163回例会 平成15年2月5日(水) 曇のち晴. 最高7℃. 最低-1℃

- 会長 長田 昌昇 ● 幹事 平岩統一郎 ● SAA 亀山 裕一
- 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 碧南市源氏神明町90番地
TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>
E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 会報委員 加藤知彦・竹下 豊・竹内光博・新美惣英



- 斉唱
国歌 「君が代」
ロータリーソング「奉仕の理想」

- 本日のメニュー
和風弁当 大正館

- 本日のお客様
卓話講師 高浜RC 黒田 勝基君
米山奨学生 王 培紅さん



会長挨拶

2月1日に愛知長久手RCの認証伝達式に出席してきました。瀬戸RCスポンサーのもと、日本で2316番目、2760地区79番目のクラブが誕生しました。会員は22名でスタートです。

さて、現在イラクでは、国連査察団による大量破壊兵器の査察が行われており、アメリカとイギリスによる武力行使も危惧されています。イラクはアラブ人の国の1つですが、アラブ人はいったいどんな性格、気質なのでしょう。友人から聞いた話としてアラブの格言から、彼等の性格と気質をお話したいと思います。

アラブの格言に「表に出ない罪は7割が許される」また「恥ずべき行為をした者はそれを隠しておけ。不名誉なことが1つ知ればもう1つの不名誉を生む」。要するに、ばれなければ少々悪い事をしても許される。黙って隠しておきなさいという事のように。彼等にとって「うそ」は悪ではなく、うそを言われた人に有害な結果をもたらした時だけ悪になるようです。したがって、アラブ人は自分の目的を達成する為に「うそ」をつく事に、何のためらいもないようです。

先日、国連宛に提出されたイラクの大量破壊兵器に関して重大な違反があると言っておりますが、この申告書もアラブの格言に基づいて作られたものかもしれません。申告書にうそを書いても、特別誰かに有害な結果をもたらす訳では無く自分達の目的達成の為には、うそも悪ではないという理屈でしょうか。「争いの仲裁人は争っている人達より金持ちか力持ちであるべきである」という格言もあり、アラブ社会では弱者への同情は全く無いようです。敵は相手の弱った時期を待ち受け、ここぞとばかりに攻撃し復讐するようです。

強い者は常に崇拝されます。例えば工場の門衛がアラブ人とします。社長、専務が出勤してくれば最敬礼をして迎えの車のドアを開け握手をし、部課長であれば軽く頭を下げ社員であれば

軽く手を上げるようです。仮に彼等の給料が日本人の百分の一であっても容赦はしないようです。その他に「人に頼る者は砂漠では生きられない」「公正を行えば世の中の半分を怒らせる」「掟とは集団の約束である」。これらの格言は、今の日本にそのまま通用するように思えるが如何でしょうか？

幹事報告

他クラブ例会変更（時間など詳細は各クラブにお問い合わせ下さい）

1月25日のIMに多数出席いただきましてありがとうございました。

長田会長、榊原次年度ガバナー補佐が登壇され挨拶されました。

次回例会（2月12日）は定款第5条第1節の規定により休会となります。

本日例会後、定例理事会を305号室で開催いたします。

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数 78 名（内出席免除者 15 名）出席者 62 名	
出席対象者 51 / 63 名	出席率 80.95%
欠席者 16 名（病欠者 0 名）	前々回修正出席率 96.83%

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

〈ニコボックス委員会〉

卓話講師の黒田勝基君より卓話のお礼をニコボックスに頂きました。

長田昌昇君 IMありがとうございました。つまらないことを言ったと思います。

2月1日愛知長久手RCの認証状伝達式に出席してまいりました。

榊原義嗣君 先日のIMで挨拶をさせて頂きました。

杉浦成人君 加藤良邦さんと木村克美さんにお世話になりました。

早退、遅刻11件 合計35,000円

〈親睦活動委員会〉

会員誕生日

4日 杉浦 昌裕君 9日 石川八郎右衛門君、大原 久宜君 16日 平岩 辰之君
18日 植松 敏樹君 25日 杉浦 昇一君 26日 伊藤 正幸君

奥様誕生日

1日 中根 佑治君の奥様 澄恵様、大原久宜君の奥様 久恵様
10日 水野 宏幸君の奥様 道子様 15日 新美 惣英君の奥様 直 美様
20日 石橋 嘉彦君の奥様 里美様 21日 粟津 良一君の奥様 千恵子様

結婚記念日

11日 平岩統一郎君・和 恵様 25年銀婚式 新美 宗和君・雅 代様 23年
28日 長田 銑司君・美代子様 40年

入会記念日

6日 杉浦 正男君

米山奨学生 王 培紅さんのご主人景四泉様 2月19日誕生日

〈会員増強委員会〉

本年度の碧南クラブの会員増強には、経済・社会の厳しい環境もあり大変難しい状況にあります。新入会員候補者の情報、或いはご推薦を会員増強委員会に賜りたくお願い申し上げます。

卓 話

「第2760地区及び高浜クラブの青少年交換活動について」

地区青少年交換委員会 委員 黒田勝基君

1. 青少年交換事業の歴史と実績

1929年にデンマークのコペンハーゲンRCでヨーロッパ内のみで始まり1961年日本（九州）とオーストラリアの間で交換が開始されました。1968年第260地区（第2760地区の前身）と米国間で交換開始され、1970年高浜RCと米国との間で交換が開始され2002年度までの実績として、受入36名（6ヶ国）、30名の派遣実績があります。

1974年碧南RCの岩本美紀子さんが米国と交換。碧南RCは、唯一この交換のみの実績です。現在第2760地区は英語圏：オーストラリア、米国、カナダ 非英語圏：欧州、南米、アジアの12ヶ国と交換を実施しております。

2. 仕組み（スケジュール～派遣～受入）

地区資金として、2000円／ロータリアン・年を徴収させていただいています。青少年交換を実施していないRCも、地区資金として協力を頂いています。その資金で、ホストファミリー補助金、オリエンテーション費用、小旅行費用等が拠出されます。次年度、次次年度のための青少年交換プログラムの概要は地区協議会で発表されます。1サイクル（募集～決定～派遣～帰国）が3～4ロータリー年度にわたるものです。従って、引継と継続が重要なプログラムです。交換事業を実施するロータリークラブはカウンセラーを任命し、学生が来日から帰国まで（年度をまたがる）面倒を見ることが大切です。ロータリークラブ会員の子弟が参加できる唯一のプログラムです。高校生を対象とした、語学留学ではなく国際理解、国際親善を中心目的とした1年間の留学プログラムです。善意と国際理解のロータリー使節（Rotary Ambassador of Goodwill and International Understanding）として1年間派遣します。選考決定後約1年間、地区委員会、ROTEX（帰国学生）等が留学時の生活、学校、友人の作り方、危機管理等のオリエンテーションを行います。留学生活が充実し、安全でかつ実りあるように指導します。また、国際親善のための留学であることから、日本の文化、歴史、経済等、派遣先国で十分国際相互理解が図ることができるよう教育します。各種留学制度の中でもっとも安全で、もっとも安い留学ができます。それはロータリークラブとして学生の面倒を見て、受入を保証するからです。

また、派遣先国では各国からのロータリー交換学生との交流を通じて、数カ国から十数カ国の学生と親交を深めることができます。第2760地区でも、12ヶ国からの学生がそれぞれ同じ目的で1年間過ごすことから、強い友好関係が築けるようです。学生の留学に関する保護者の費用は、往復旅費、緊急時費用（使わない場合がほとんど）、保険料、個人的費用（私服、電話代、遊興費等）のみで、学生本人に対してはホストロータリークラブから毎月の小遣い（1万円／月見当）さえ支給されます。交換を基本とするため、派遣／受入が行われます。受入のみでもかまいません、また、ロータリアン個人としてホストファミリーのみを体験することも地区で幹旋できます。国際的に承諾されたルール、規程にサインをして交換します。それに違反した場合は、強制帰国の対象になります。絶対してはならないルールは、DRIVE（動力付き乗り物の運転の禁止）、DRINK（アルコール飲料の飲酒禁止）、DRUG（喫煙、薬物の禁止）、DATE（男女間の緊密な交遊の禁止）＝4Dルールがあります。これは、学生の安全を保証するためのルールで、活動を規制するためではありません。そのほか、学生の安全や日本文化を理解させるために、門限、家事の役割分担など、各家庭でルール化します。

3. ホストRCになりませんか？

ホストロータリーまたは、ホストファミリーを体験してみませんか？必ずやって良かったと感じます。来日から帰国までオリエンテーション、修学旅行、例会出席（ショートスピーチ）、お別れ会などが開催されます。学生達は来日から、徐々に日本を理解し、友達の輪が広がり、帰国するときには日本の大ファンになります。ほとんどの学生がもう一度日本に帰ってくると行って帰っていきます。受入RCとしての必要経費は、毎月の小遣い（1万円／月）、例会等食事費、制服費、通学定期代、修学旅行費（学生個人負担の地区もあります）等、25-35万円／年と考えして下さい。これだけの費用で、十分納得できる充実した1年間を体験できます。

4. 青少年交換事業はすばらしい -成功の秘訣-

1年間という長期間のプログラムです。肩肘を張らず、自分の子供が一人増えたというスタンスで対応すればいいと思います。ホストロータリークラブ全員が関係するプログラムです。ホストファミリーと国際奉仕委員長のみのも事業ではありません。日本の文化・歴史を体験するために来日したのですから、最初から日本語で通すべきです。トイレ、風呂、寝床等現状で全くかまいません。ありのままを体験させます。過度の対応、ホストファミリー間、ホストクラブ間の対応の差がトラブルのほとんどです。YES/NOをはっきりさせることです。子供の成長（誕生から大人まで）の感動を実感できるプログラムです。自分の子供が世界にできるような気分になります。結婚式に呼ばれたりするケースも往々にしてあります。『お父さん』『お母さん』と呼ばれる嬉しさがあります。一度経験してみるとその素晴らしさがわかります。食わず嫌いにならないで、まず、できることから体験してみましょう。

個人としてのホストファミリーとして、近隣クラブとタイアップすることも可能です。

次回例会案内／2月26日（水）卓話 「21世紀の碧南市の発展に向けて」
名誉会員 碧南市長 永島 卓氏